

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	豊田市こども発達センター なのはな			
○保護者評価実施期間	2024年11月1日 ～ 2024年12月2日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	2024年8月21日 ～ 2024年8月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの育ちや子どもの発達(聴こえやことば、基本的生活習慣等)をとらえた、無理のないスモールステップの目標設定と子どもや保護者に寄り添った支援	日々の療育の中で子どもの育ちや発達を確認し、目標設定を行っています。目標を達成するための支援方法についてスモールステップの方法を考え無理なく目標が達成できるように支援を行っています。	子どもの育ちや発達に対する職員の専門性を高めることで、より子どもの実情に合った目標設定や支援の方法が可能になると考えられます。職員研修や個別カンファレンスなどを今以上に充実させます。
2	子どもや保護者の困り感に対してすぐに相談できる体制	なのはなは家族通園のため、保護者の困り感や不安に対してすぐに相談できる体制が整っています。保護者からの申し出があればすぐに個別懇談を行い相談に応じています。保護者の意見をしっかり確認しながら保護者とともに解決できる方法を考えています。	保護者の気持ちに寄り添えるよう、普段から保護者が話しやすい環境作りを心掛け保護者との信頼関係を構築します。
3	きめの細かい移行児支援	移行児支援では移行前の段階から情報提供を行っています。ろう学校やこども園などに保護者と職員が一緒に見学に行ったり、移行した先輩の保護者の話を聞く機会を設けています。移行後も移行先と定期的に情報共有を行ったり、実際に移行先に訪問し、子どもの状況を確認したり、移行先の職員と一緒に支援方法を考えています。	移行先の状況も多様化しています。職員も移行先の情報をしっかり確認しながら移行支援にあたることができるようにします。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人数が多い時の環境設定	利用児に対して家族が多く付き添ってきたときなど、療育室の環境設定や職員配置等に工夫が必要な場面が多く見られました。特に給食場面では人数が多すぎて支援が行き届かない場面がありました。	給食時の環境設定（机の配置、職員配置、時間設定等）を工夫したり、人数が多いことが予想される時には給食時に広い部屋を準備し、安全面に配慮した環境設定ができるようにします。
2	他事業所との連携	近年他の事業所と並行して利用する利用児が増えてきました。事業所との連携についてはまだ手探りな状況なので、しっかり考えていきたいと思います。特に専門性が必要な聴覚障がいの子どもが利用している他の事業所に対して児童発達支援センターとしてどのような支援ができるのか考えていきたいです。	聴覚障がいなど児童発達支援センターからの専門的な支援や情報共有が必要な事業所に対してどのような支援方法があるのか、事業所の状況や意見を聞きながら考えていきます。
3			